

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立誠道小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	全職員	漢字の「止め」「はね」「はらい」を正しく書く。	学期末ごと	①新出漢字などの漢字の学習において、「止め」「はね」「はらい」を押さえる。 ②家庭学習等で習熟を図る。 ③漢字ノートに正しく練習ができているかチェックする。 ④学年の実態に合わせて評価の工夫をすることで、意欲的に漢字学習に取り組むようにする。 ⑤漢字を正しく書くため姿勢や集中力を大切にすること。 ⑥小テストを行うなどして定着を図る。 ⑦家庭でも声掛けをしてもらうなど協力をお願いする。	漢字を正しく書くことができる児童の割合90%
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	全職員	家庭学習の時間を確保するとともに、内容の充実を図る。	学期末ごと	①学年に応じた家庭学習時間の目安を確認する。 (学年×10分+10分以上) ②PTAと協力し、メディアコントロールの取組期間を中心に、家庭学習時間のチェックを行う。 ③自主学習では、メニューを提示したり児童のノートを紹介したりするなどして、学習内容の幅を広げる。 ④学習環境を整えて家庭学習に取り組むよう、保護者にも協力をお願いする。	学年に応じた時間以上家庭学習に取り組むことができる児童90%

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
<p><全国></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語及び算数ともに、正答率は全国平均を上回った。中でも国語では大きく上回った。 ○国語では、記述で解答する問題は、すべての設問で全国平均を上回った。 ○「心に残ったことを書く」問題の正答率(100%)は、全国平均(68.2%)を大きく上回った。 ○算数では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域で、全国平均を上回った。 ●算数の「数量や図形についての知識・理解・技能」の領域で、全国平均をやや下回った。 <p><県></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3・5年で、国語及び算数の正答率が全国平均を上回った。 ○●4年で、国語の正答率が全国平均を上回った。算数の正答率は全国平均を下回った。 ●3学年とも、国語では、内容の「読み取り」に課題が見られた。 ○3学年とも、「図形」の領域で全国平均を上回った。 ●3・5年の算数では、「計算のふくしゅう」に課題が見られた。 ●3学年とも、算数では、「根拠をもとに、理由を記述で説明すること」に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習を1時間以上する児童」は、6年90.9%(全国平均66.1%)、5年88%(県平均74.4%)で、かなり高い。 ○「平日にゲームをする時間が1時間より少ない児童」は、5年56%で、県平均(41.3%)より14ポイント以上高い。 ○「平日にテレビやDVDを視聴する時間が1時間より少ない児童」は、5年48%で、県平均(22.9%)より20ポイント以上高い。 ○「読書は好きだ」という児童は、6年81.8%で、全国平均(75%)を上回っている。 ○●「自分にはよいところがあると思っている児童」は、6年90.7%(全国平均81.2%)、5年76%(県平均82.3%)と、学年によって違いがある。

成果

- 朝学習や補充学習を中心に、漢字や計算などの基礎的・基本的な学習内容が定着してきた。
- 「話す・聞く・書く」活動を意識的に取り入れることで、自分の考えを表現する力が伸びてきている。
- 辞書を机の横に常備し学習に活用することで、語彙を増やすことや、自分で調べる力につながってきた。
- 家庭での学習時間は、どの学年でも定着している。
- PTAとの連携によるメディアコントロールの取組の成果が見られる。

課題

- 「話す・聞く・書く」活動を意識的に取り入れ、自分の考えをまとめたり伝えたりする力を伸ばす。
- 図形の領域を含む既習事項の確認をし、定着を図る。
- 家庭学習では、予習や復習、調べ学習などに自主的に取り組むようにする。
- 機会をとらえて認められる場を設定し、自己肯定感を高める。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎学力の定着	各学期末	勉強がよくわかる。 児童アンケート 80%以上。	◇朝学習では漢字や短文作りを中心に、言葉を広げる学習を行う。 ◇補充学習(誠道っ子タイム)で復習をし、既習事項の定着を図る。					
自己肯定感の育成	各学期末	自分にはよいところがある。 児童アンケート 80%以上。	◇様々な活動の中に「いいところ見つけ」を取り入れ、自己肯定感・自己有用感を高める。 ◇学級の支持的風土作りを積極的にを行う。					
家庭学習の定着と充実	各学期末	児童全員が毎日、自主学習ノートに取り組む。達成率80%。	◇児童がやる気をもって自主学習に取り組むよう、一人一人の習熟の度合いに応じた指導と支援を行う。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

- 中学校区での、学習規律の徹底。
- 小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。
- 読書活動の推進
- 書く活動の充実(要旨をまとめる、自分の言葉で学習のまとめをする等)
- メディアコントロールの取組
- 家庭学習の充実(自主学習ノート)

保護者・地域へ理解・協力を求めること

- 家庭のルール(メディアコントロール等の取組等)を決め、勉強時間や学習環境が確保できるようPTAと連携して取り組む。
- スマートフォン等の使い方について学級懇談で取り上げる。
- 放課後の補充学習を週2回行い、低学年のうちから基礎学力の向上と定着を図る。
- 月1回親子読書の時間を設け、親子で触れ合う時間を設定する。
- ボランティアによる読み聞かせや学習支援の継続、さらなる充実を図る。